



▲7月にMakuakeに掲載予定の「grace」シリーズ。資源循環型エコサイクル商品



▲めぐり陶器の盛り付け例。デザイン性にも優れている



Sustainable Company

使用済み陶器から生まれた陶土を使った「めぐり陶器」が好評。法人ギフトとしても注目



有限会社二明商店

ホームページ <https://www.nimei-japan.com/>

Instagram [https://www.instagram.com/nimei\\_shouten/](https://www.instagram.com/nimei_shouten/)

楽天市場店 <https://www.rakuten.co.jp/nimei-8111/>

有限会社二明商店は1953年の創業。来年70周年を迎える美濃焼き製品の卸売販売会社だ。創業当初から卸事業をメインに行なっていた同社だが、1996年に販路を拡大。全国の金融機関に向けた「年金受給者へのお誕生日プレゼント企画会社」として地銀や信用金庫、信用組合等へのアプローチを開始した。現在では、様々な金融機関に対し、陶器に加えてマイバツクやLEDライト、カトラリー、タオルなどを提案する。

特に陶器の企画力・品質には定評があり、人気なのが「しずく彫り」と「めぐり陶器」のシ

リーズだ。

しずく彫りは同社のオリジナル陶器。器面に模様などをくり貫いて特殊な硝子釉を埋め込み、器全体に透明釉をかけて焼き上げる技法を用いており、滴る雫の様に光り輝く様から「しずく彫り」と名付けられた。その美しさからファンも多い商品だ。

一方、Re-食器「めぐり陶器」は、一般家庭などから使用済み食器などの不要陶器を回収して粉碎し、原料化。それを他の原料と混ぜ込んで陶土を作成。その陶土を成型し、焼成することで生み出されるエコサイクルな陶器だ。

この「Re-食器」作りは、美濃焼の産地である東美濃の生産者が中心となって進めている地域ぐるみの取り組みでもある。1997年に美濃焼に携わる企業や行政、公設試験専門機関や専門家などが集って、陶磁食器の資源循環・リサイクルを行うグリーンライフ21・プロジェクトがスタート。二明商店もこのプロジェクトに参画し、これまでもRe-食器の企画・販売を行ってきたが、環境意識の高まりに合わせて、2021年からめぐり陶器シリーズとして本格展開を開始。現在7種の柄の皿や碗、マグカップなどを展開する。

めぐり陶器はエコマークも取得しており、CSRや環境への意識が高い金融機関からも非常に好



▲めぐり陶器のエコサイクルのイメージ

評。特に「1年目は皿、2年目は飯碗、3年目はマグカップ」という風に、3年間分のプレゼントを提案する企画が人気だ。

また、同社ではしずく彫りやめぐり陶器の人気を受けて、2020年から楽天市場や自社サイトなどのECモールでオリジナル陶磁器の販売も開始している。

「BtoCについては認知度含めてまだまだこれからという状況ですが、ノベルティ・プレミアムとしては一般企業様からのお問い合わせも増えています。今後も様々な方に触れていただける機会を作っていければと考えています」(同社)

SDGsや環境への意識も高まる中で、法人ギフトとしてもますます注目が集まるめぐり陶器。こうした商品が受け入れられていくことで、消費者が環境問題について考える正のループも生まれていくだろう。